

令和7年度

鹿児島県の教育

4・5月号



巻頭言



「戦後八十年」によせて

一般財団法人鹿児島県校長会館理事長
県連合校長協会高等学校校長会 黒木 誠

鹿児島県立鶴丸高等学校長
黒木 誠

県連合校長協会は、今年度、百二十人の新会員を迎え、小学校長部会長に永田孝哉（山下小）校長、中学校部会長に森園守（明和中）校長、特別支援学校校長部会長に堀之内恵司（鹿児島特別支援学校）校長、そして、高等学校部会長を兼ねる私の新たな体制でスタートします。

会員数は小学校四百五十九人、中学校八百十二人、高等学校九十人、特別支援学校十六人の合計七百四十七人です。全国でも珍しい四校種校長会の連合体という特性を生かしながら、当面する様々な教育課題の解決に向けて取り組んでまいりたいと思います。会員の皆様の積極的な取組と相互の連携・協力をお願いします。

さて、私が勤務する鶴丸高等学校には、「鶴丸は勉強するところである」という言葉が受け継がれています。昭和二十五年の入学式後の新入生と上級生との対面式において、当時の生徒会長が、新入生に対して語った言葉だと言われているのですが、この言葉に込められた思いを考える上で、当時の時代背景を知っておく必要があります。

今年は、太平洋戦争が終結した昭和二十年からちょうど八十年を迎える節目の年になります。終戦後、社会の様々な制度が変わっていく中で、戦前の五年課程の旧制中学校は、新しい学制のもと、三年課程の高等学校へと変わっていきました。本校は、昭和二十四

年に旧制鹿児島一中と旧制鹿児島一高女が統合する形で発足した学校になります。先ほどの「鶴丸は…」の言葉を残した生徒会長が所属する昭和二十五年当時の高校三年生は、その五年前の昭和二十年、終戦の年に旧制一中の一年生として学生時代を過ごした学年です。昭和二十年は、その年の三月以降、鹿児島市内においても激しい空襲が繰り返され、六月十七日の空襲では本校の校舎も焼失しています。また、この時期の旧制一中の生徒たちは、県内外の工場に動員されて労働に従事しているという記録も残っていますので、学生が学校に来て勉強する、学校生活を送るという当たり前のことがなかなかできない状況だったと思われます。

戦争が終わり、新しい鶴丸高校が誕生したときに、当時の生徒たちは自分たちが高校で学んでいる、学ばせてもらっているということに対して感謝の気持ちを感じていたのだと思います。そして、一生懸命に学ぶことによって、戦争で疲弊した日本の国を、私たち若者の力で、新しいよりよい国にしていきたいという大きな志があったのだらうと思います。

当時の生徒会長の言葉には、そのような思いが込められていたのだと思います。勉強ができることこそは、自由で平和な時代の証。戦後八十年の節目の年に私たちが「学校で学ぶ」ということの意義を再考してみたいものです。

* おもな内容 *

巻頭言	1	ある日の校長講話	13
提言	2	読書案内	14
退任にあたって	4	一般財団法人校長会館だより	16
新任の抱負	9	編集後記	16

令和7(2025)年 4・5月号

一般財団法人鹿児島県校長会館

〒890-0056 鹿児島市下荒田四丁目32-13

振替 02030-1-3192

TEL 257-9676 FAX 257-9679

(有) アート印刷

鹿児島市東坂元二丁目29-1

TEL 247-1605 FAX 247-2844

表紙絵(桜島の絵) 4・5月号～9月号 前川内北中学校 感王寺 等
題字(鹿児島の教育) 4・5月号～2・3月号 星峯西小学校 永里 智広